

平成26年4月24日

岩国市長 福田良彦 様

錦帯橋を世界文化遺産に推す会

会長 川畑道子

### 要望書

錦帯橋は、岩国の先人が創建した世界に唯一の木造のアーチ橋であり、その架橋技術を伝承し、340年の長期にわたり営々と架け替えを繰り返してきた文化遺産です。

岩国市は、平成16年に「錦帯橋みらい構想検討委員会」を設け、世界文化遺産登録に取り組まれ、その結果、平成20年9月世界遺産登録の前段階である「暫定一覧表」には掲載されなかったものの、その候補資産「カテゴリーIa」にランクされました。そして、文化庁は錦帯橋の世界文化遺産の暫定一覧表登録に向け、幾つかの「課題」を提示しました。

この「課題」に対応して、岩国市は「錦帯橋世界文化遺産専門委員会」を設け、鋭意取り組まれ、錦帯橋が木造橋の世界文化遺産として登録に値する「架橋技術と確実な伝承」の歴史的裏付並びに他国の代表的橋梁と綿密に比較をされ、その文献として『究極の名橋 錦帯橋』を発行、平成25年7月、文化庁に提出されました。

世界の世界遺産数は、平成26年度には1,000件を超えるものと予想され、新規登録のハードルはますます高くなりつつあります。それ故に、錦帯橋を世界文化遺産とするために、強力かつ敏速な運動を展開する必要があります。中国はすでに屋根付き木造の風雨橋を暫定一覧表に登録しております。これは、錦帯橋の世界遺産登録にとって脅威的存在です。

私たちは、今まで活動してきた「錦帯橋を世界文化遺産にする会」を発展的に解消し、50余の法人・団体・グループ（所属員数・約5万人）で構成する「錦帯橋を世界文化遺産に推す会」を平成26年3月18日に立ち上げました。今後は会として、世界遺産としての価値を再検証し、市民の関心を一層高めると共に守る運動を実行して参ります。

初めての活動として岩国市に対し次の通り要望します。

## 記

文化庁が「錦帯橋と岩国の町割」を「カテゴリー Ia」に認定したおりに提示された「課題」を可及的速やかに解決し、山口県と協働体制を深め、強力に国の関係部門に当られることを望みます。

**1. 錦帯橋が、世界的・国際的な観点から木造アーチ橋として顕著な普遍的価値を有することを更に確実にするため、広く内外の建築家や橋梁工学の権威者に研究発表を依頼する。現在編纂中の『錦帯橋技術史』と共に、『究極の名橋 錦帯橋』を補完する。**

2008年、カナダのケベック市において開かれた世界遺産会議（32COM）は、均衡のとれた世界遺産のため、科学技術専門家研究部会を設けました。そのワーキンググループは、登録の可能性のある科学技術遺産について、世界遺産委員会の審査に協力すると共に、明確なガイダンスを提示するよう求めています。そうして、登録基準（vi）の科学技術遺産の単独適用も例外的にあり得ると提言しました。このことは、「錦帯橋の独創的架橋技術及び確実な伝承」を世界文化遺産に登録する門戸が開かれたことを意味します。わが国では、産業遺産が平成26年度、27年度に提案される仄聞しています。平成28年度は、科学技術遺産分野の第1号に錦帯橋を世界遺産を推挙されるよう、強力かつ速やかに課題を解決されることを望みます。

**2. 河川を外濠とした防備上の必要性及び城下町との結合の必然性に加え、錦川の清流と城山の照葉樹林を借景とした錦帯橋の自然との調和を、やすらぎの大空間としての観点から、都市工学や自然公園の権威者に評価していただき、錦帯橋の優れたデザイン性を登録の内容に採り入れる。**

### **3. 世界遺産登録の現在の表題の変更と焦点**

現在文化庁に申請されている表題は「錦帯橋と岩国の町割」である。これは、町割が錦帯橋と同格のネーミングである。ミシェル・コット教授がアドバイスされる通り「錦帯橋の独創的架橋技術及び確実な伝承そして景観との調和」を重点にした題名に変更する。そして1及び2の内容を織り込み、錦帯橋そのものに焦点を合わせる。（注：スペインのビスカヤ橋などを参考にする）

旧岩国城の石垣の特殊性などを採り入れる。広い範囲の緩衝地帯は見直し、まちなみ保存や町並みの整備は重要であるが、別の政策面から推進する。

### **4. 錦帯橋を世界遺産に推す岩国市の組織・体制の見直しと強化**

現在、錦帯橋世界遺産推進室は観光推進課の下にある。世界文化遺産への取組みを強力に推進実行するため、推進課等に格上げし、所属を市長直属又は総合政策部門に移し、プロジェクトチームを編成するなど体制を強化する。対外的に本気度を示す大きな要点である。

5. 錦帯橋の世界文化遺産登録を、**現在策定中の「岩国市の新総合計画」の重点戦略構想**として位置付ける。

#### 6. 錦帯橋資料館の創設と運営

世界文化遺産登録の重要条件の一つに資料館がある。錦帯橋や世界の木造橋の模型や資料の展示場と、架橋技術の伝承と「ものづくりの実習室」を兼ねたスペースを併設し、多くの市民や観光客が利用する場を設ける。その運営は民間団体に委託し、独立採算を目指す。

#### 7. 錦帯橋架け替え木材の調達

錦帯橋の用材は、木材が主である。特に、錦帯橋の拱肋に用いる木材は長大な丸太から採材される心材に限定され、調達は困難となりつつある。対策として、錦帯橋用材となりうる山林の所有者（国有林を含む）と錦帯橋架け替え用材契約の制度を採用し、早急に実行する。

そして、錦帯橋の架け替え材の持続的調達を確実なものとし、文化庁担当者やエコモス委員等を現地に案内する準備をする。

#### 8. 錦帯橋の世界文化遺産登録実現の波及効果（本会の主目的ではないが）

錦帯橋の世界文化遺産の実現は、広島原爆ドーム（平和への祈り）、宮島（神を祀る島）、錦帯橋（木の文化の粋）と件の世界遺産が、約50kmの範囲に存在することになる。それは、ジャンル異なる世界遺産3点セットとして面的な広がりをもたらし、国内外の注目度を高め、岩国市への訪問者は飛躍的に増加する。さらに、下関・萩・山口方面への観光客の流れが著しく増加し、波及効果は計り知れない。このことは、別の部門での精査が行われることを望みます。因みに、平成25年の宮島の観光客は440万人であり、年々増加している。

上記、8項目をまとめ、「錦帯橋を世界文化遺産に推す会」の参加団体の一覧表（平成26年3月末現在）を添え、要望します。

以上